

只見町で没した河井継之助が映画化

# 映画「峠 最後のサムライ」製作支援



▲河井継之助記念館に設置してある継之助像

— 司馬遼太郎「峠」原作

継之助を描いた映画

戊辰戦争150年の節目を迎えた昨年の9月、作家・司馬遼太郎氏の名作小説「峠」が初めて映画化されると発表されました。



▲継之助が使用したガトリング砲の複製

映画は「峠 最後のサムライ」と題し、150年前の戊辰戦争を長岡藩家老として戦

い、只見の地で没した河井継之助を主人公に描いた作品です。最後まで信念をもって激動の幕末を生きた最後のサムライ・継之助役を演じるのは役所広司さんで、継之助の妻・おすが役に松たか子さん、長岡藩老公（前藩主）・牧野忠恭（ゆき）役に仲代達矢さんなど豪華キャストが出演します。メガホンを取るのは、黒澤明監督の助監督として数々の名作に携わり、初監督作品「雨あがる」で日本アカデミー賞最優秀作品賞を受賞した小泉堯史（たかし）監督です。撮影は長岡市や新潟市など新潟県内を中心に、9月から11月まで行われました。映画は2020年に全国公開される予定です。



▲河井継之助記念館に展示されている継之助の「終焉の間」

「雨あがる」で日本アカデミー賞最優秀作品賞を受賞した小泉堯史監督です。撮影は長岡市や新潟市など新潟県内を中心に、9月から11月まで行われました。映画は2020年に全国公開される予定です。

- interview -



奥会津只見 継之助会  
会長 角田 行雄

映画「峠 最後のサムライ」を応援しようと始まったこの活動は、わずか2週間ほどの間に多くの皆さまから沢山のご協賛を賜ることができ、大変感謝しております。これもひとえに、映画に対する期待や継之助への関心の高さの現れと感じております。短い期間での支援活動であったため、協賛のお願いをすることができなかつた方々もおり、非常に残念な部分もありますが、皆さまから集まった協賛金は、長岡商工会議所にしっかりと渡すことができました。

今後も引き続き、映画の完成披露試写会の誘致などに向けて努力し、この映画を契機に継之助ファンを増やしたいと考えています。

— 映画応援組織を発足し

約80万円の協賛金贈る

歴史ガイドや観光団体などの町内の有志が集まり「奥会津只見 継之助会」を結成し、映画「峠 最後のサムライ」の製作を応援しています。継之助会の会員は、河井継之助記念館や河井継之助ボランティアの会、町観光まちづくり協会、文化協会、福祉関係者などの継之助ファン12名で構成されて

おり、長岡商工会議所や小千

谷商工会議所など新潟県内の5団体でつくる「映画『峠 最後のサムライ』製作支援の会」に参画し、11月14〜27日までの期間、町内を中心に協賛金を募りました。町民や事業所などに協賛を呼びかけ、300を超える個人・団体から80万9千300円の協賛金を集めました。



▲丸山会長(前列右)に寄付金を手渡す角田会長(前列中)と出席した皆さん

12月3日、継之助会の角田行雄会長など4名の会員が、製作支援の会事務局がある新潟県長岡市の長岡商工会議所を訪れ、製作支援の会会長の丸山智会頭に協賛金を手渡しました。協賛金は映画製作会社の松竹に贈られ、製作や宣伝に活用される予定です。